



第26号

Email izumi-j@kanazawa-city.ed.jp

泉中だより

令和6年11月26日(火)

「人権」について考えました。



11月21日(火)に金沢市共生社会推進サポーターでソーシャルワーカーの馬渡徳子さんが来校され、人権に関する講話をお聴きしました。

「自分を大切に まわりの人を大切に お互いを大切に し合えるしくみをつくるということ」と題してとても穏やかで優しい口調で、お話をいただき、心の緊張がほぐれていくのを感じました。

講演後、生徒を代表し生徒会長の宮野幹太郎さんが「『男はつらいよ』の中で寅さんが言った言葉が印象に残りました。」とお礼の言葉を述べました。皆さんはどのお話が印象に残りましたか？

映画「男はつらいよ」の一場面より（みつおが大失恋をした場面）

みつお：「どうして人は生きているのかな」

寅さん：「それは・・・人生には「生きていて良かった」と思うときが何度かあるんだ。そのために、生きているんじゃないかな。お前も、そういう時が、これからもきっと来る。」

～皆さんの感想より～

人権教育講話を終えて、人権の大切さを改めて感じました。他にも、怒りは自分にぶつけても、相手にぶつけても、両方傷つくという話や、社会へのちょっとした違和感や理不尽さに「耐える」のではなく「変える」のだ、という話もあり、これからは怒りを自分の中に閉じ込めないようにし、理不尽な世界に耐えるのではなく、少しずつ変えていきたいという思いを持ち続けたいです。
(1年3組 高倉 悠汰さん)

私は基本的人権の尊重は現状でも改善すべき点がたくさんあって、時代とともに変化していくから、それに合わせ法律などが新しく作られたり、改正されたりすることが必要だと思いました。また、生きていることだけで価値があるということについて、私は自分で生きる価値を見つけることができるということに素晴らしさを感じたので、生きていくことがつらくなっても、そのたび、この考えを思い出したいと思いました。
(2年1組 神崎 優理子さん)

人権教育講話を終えて、聴く前よりもより人権について考えることができたと思います。「感情」のペットボトルのお話では怒りの気持ちが一番大きくて、誰かに当てても自分に当てても痛いから抱え込む前に誰かに話すようにしたいなと思いました。人と人との間にはいろいろな違いがあって、その違いで誰かを傷つけてしまったり、逆に豊かにしたりすることもできるから、自分自身がその違いで誰かを傷つけてしまわないようにしていきたいと思いました。人権が自分にとってより身近なものになった気がしました。おすすめにあった本などを読んだりして、もっと人権について考えたいと思いました。
(3年5組 若林 柚希さん)